

つながり

「つながり」は、医療や介護に従事する皆様が、多職種に向けて自らの情報を発信し、互いに理解を深め、顔の見える関係を築くための連携ツールとして、季節の節目ごとに発行しております。

令和5(2023)年 4月20日 発行
発行元
秋田市在宅医療・介護連携センター
TEL 018-827-3636
E-mail renkei-center@acma.or.jp

在宅医療・介護に携わる関係者9人がオンライン集合！ 座談会『医師と本音で話し合おう』を開催しました（後編）



座談会参加者紹介

長谷山 俊之氏 長谷山内科医院 医師	伊奈 慎介氏 早川眼科伊奈皮ふ科医院 医師	千葉 利昭氏 旭北歯科医院 歯科医師
岩間 雄一氏 アルヴェいわま薬局 薬剤師	築瀬 昭子氏 医心館秋田 看護師	加藤 祐子氏 医心館秋田 看護師
森川 保氏 ソフトハンド四ツ小屋 看護師	加藤 健悦氏 ソフトハンド四ツ小屋 代表取締役	市原 利晃氏 秋田往診クリニック 医師

「多職種からの率直な意見が聞きたい」という医師の考えから出発し、R2年に在宅医療・介護関係者による座談会を行いました。(つながりVol.8に掲載)今回は高齢者の介護施設(居住系サービス)に焦点を当て、関係者9人が医療・介護連携について意見交換しています。本号ではその後編として「最期まで自分らしく過ごす～“食べたい”をサポートする」「垣根を取り払い、情報を共有する」をご紹介します。

前編 (Vol.17)では「施設の機能や体制が分かりづらい」「看取りをしてくれる医師を知らない」など、情報不足が連携の課題になっている現状についてお伝えしました。後編は、千葉先生による口腔ケアや嚥下の話からスタートします。

最期まで自分らしく過ごす～ “食べたい”をサポートする

市原氏 歯科医師の千葉先生にも来ていただいているので、先生からもお話を伺いたいと思います。在宅医療を始めた頃の私は、歯科医師には義歯や虫歯への対応をお願いするものと思っていましたが、千葉先生にお会いしたことで口腔ケアや嚥下の大切さに気づくことができました。

千葉氏 市原先生のおっしゃるとおり、歯科は義歯調整や虫歯治療のイメージを多く持たれるので、そのような依頼に偏りがちです。しかし誤嚥性肺炎のリスクを下げるためには口腔ケアへの取り組みが非常に重要になってきます。最近はその意識が高まってきたのか、施設に入居されている方々の口腔状態が良くなってきているのを感じます。職員の皆さんが頑張ってくれ

ているのだと思います。また嚥下については、患者さんにも関係者にも理解されるようになったのがここ10年ぐらいの話でしょうか。最初の頃は「食べられるようになっていただきたくて来ましたが」と言っても、ピンときてもらえないことが多かったですね。しかし食べられるようになれば喜びを感じることもできますし、それを見たご家族が涙されることもあります。徐々に体力が落ち難しくなる方もいらっしゃいますが、一時でも食べられるようになるということは重要だと感じています。

加藤(健)氏 嚥下に関することでアドバイスをお願いします。座談会の前に職員から聞き取りを行ってきたのですが、「利用者さんの“食べたい”をできる限りサポートしたい」という声が多くあがりました。以前利用者さんに「死ぬ前にもう一度餅が食べたい」と言われたことがありまして…。

千葉氏 餅はリスクですね。どうしても歯にくっつきやすし、喉に落ちていってもずーっと伸びてくる。色々と考え方があるかと思いますが、餅そのものではなくても、その方の嚥下状態に合ったものを食べていただければ良いと思う

のです。以前私が担当した方でも、どうしても餅が食べたいと希望された方がいらっしゃいました。そこで考えたのが、薄い餅の付いたアイスです。餅が非常に薄く、アイスと一緒に唾液に溶けます。餅だよと言って少しだけ食べてもらい、それで満足してもらいました。何か代用品を考えてあげたり、栄養士と相談して変形させるなどできるといいですね。

森川氏 冷たいものは嚥下の刺激になって良いと聞いていますし、とても良いヒントになりました。施設でやってみます。

築瀬氏 私たちの所は主に末期がんの方などいずれ食べられなくなる方が多く入居されていて、食べられる間に食べさせてあげたいというご家族の言葉をよく耳にします。けれども、もしかすると食べさせることが亡くなる原因になるかもしれない、ご家族がそのリスクも理解しているのか、そしてその覚悟ができているか、その見極めが大事になると思います。食べたい、食べさせたいという気持ちだけを優先させて、こんなはずじゃなかったとならないよう調整をしていかなければ、と改めて感じています。

市原氏 そうですよ。私はなるべく

患者さんにやりたいことをやらせてあげたいと思うのです。工夫して、食べたい人には食べさせてあげたい。けれどもその時に、その希望を叶える方に振るのか、安全の方に振るのかは毎回考えなければいけない。食べさせたら亡くなった、では話にならないですし、けれども状況によってはそれで良いと思えるかもしれない。ケースバイケースで考えていかなければならないところですね。

垣根を取り払い、情報を共有する

千葉氏 実はこの前医心館を訪問した時、私がよく関わっていた方で今日が最期かもしれないという方に、加藤さんが「先生会っていきませんか」と声をかけてくれたことがありました。「うるさい歯医者か来たよー」と声をかけると向こうも分かってくれたのか、ピクッと反応してくれて。このように私に教えてくれ臨機応変に対応していただける気遣いが大変嬉しく思いました。あの時はありがとうございました。

加藤(祐)氏 先生には本当に密に関わっていたいただいた方で、先生の顔を見ただけでニコッとされる方でした。最期に会っていただきたいという気持ちで声をかけ

させていただいたのです。私たちの方こそ、ありがとうございます。ところで千葉先生に相談です。先生は嚙下の分野も含めて色々な方と関わっていらっしゃるの、アイデアもたくさんお持ちだと思います。専門医にかかっていない利用者さんへの対応で悩んでいるときに、相談させていただくことはできますか。

千葉氏 いいですよ。訪問したときにも声をかけてください。

加藤(祐)氏 ありがとうございます。受診の前にちょっと相談できる機会があると、本当に助かります。

市原氏 良い連携ですね。岩間さん、薬剤師としてコメントはありますか？

岩間氏 医心館にもソフトハンドにも薬剤師が行っていると思うので、薬に関する心配なことあればどんどん聞いてください。診察中の医師にこんなこと聞いて良いのかな、などと躊躇するような時は、どうぞ薬剤師に声をかけてください。薬剤師に相談料はかかりませんから。

市原氏 フットワークも軽く熱心に対応してくれる薬剤師さんが多いですね。

岩間氏 今後薬剤師は、薬局の外に出て人と関わりながら仕事することが、今以上に大切になってきます。です

薬剤師たちには、自宅や施設も含め、ほとんど外に出るよう伝えています。市原氏 こうやって様々な専門職が関わってけると良いですね。ソフトハンドからの話題提供がきっかけになって、良いお話が聞けたと思います。そろそろ時間ですので、この会の発案者である長谷山先生からコメントをいただき、締めてもらいましょう。

長谷山氏 皆さんお疲れ様でした。実はこの「医師と本音で話し合おう」は、飲み会の場で発案された会だと思存じの方も多いかと思えます。関係者が医師に遠慮して言いたいことも言えていないのではという話になり、だったら年に一回ぐらい医師に言いたい放題言える会を作ろうか、というところから始まっています。理想論は置いておき、今回話のなかで「先生の患者さんじゃないけど相談に乗って」というやり取りがありました。個人的には、関係者みんながこのように気軽に相談し合える間柄になれば、もっと楽しく仕事ができと思っています。お互いに垣根を取り払い、情報の共有をしていきましょう。連携センターの方には今後もより良い連携の方法を考えてもらいたいですし、医師会としてもできる限りバックアップしていきたいと思えます。皆さんありがとうございました。



長谷山氏：気軽に相談し合える仲を目指しましょう。今度は対面で、場所を変えてやるのも良いかもしれませんね。



伊奈氏：私としてはもっと気軽に質問をしてもらいたいと思っていますので、どうぞご相談ください。



千葉氏：関係者同士情報交換しながら勉強し、共にスキルアップしていきましょう。長谷山先生、ぜひ反省会の開催を。



岩間氏：まだまだ薬剤師が施設等にお手伝いできる部分は多いと思っています。ぜひ声をかけてください。



築瀬氏：その人らしい暮らしを支援します。訪問看護の分野はオタク級に詳しいので何でも聞いてください。



加藤(祐)氏：日々悩みながら対応していますが、今回相談できる場所が増え、心強く思います。



森川氏：再認識できたことなどがあり、施設内の職員への関わり方についても参考になりました。

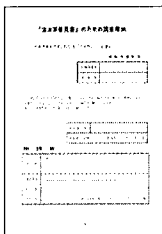


加藤(健)氏：事前聞き取りが今回役に立ち嬉しかったですし、これを機に施設内で課題を掘り下げていきたいです。

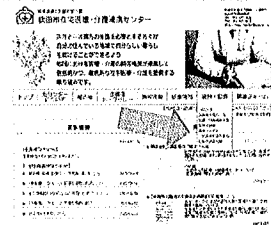


市原氏：積極的に活動しているメンバーでしたので、意見の方向性が揃って議論しやすかったです。

「主治医意見書」のための調査用紙がダウンロードできるようになりました



皆様からのご要望を受け、「主治医意見書」のための調査用紙（秋田市医師会作成）を連携センターホームページに掲載しました。トップページにある資料・動画にカーソルを合わせ「主治医意見書」のための調査用紙を選んでクリックしてください。PDFとエクセルの2種類のデータをダウンロードできるようにしております。どうぞご活用ください。



秋田市在宅医療・介護連携センター

〈受付時間〉月～金(祝日を除く)午前9時～午後5時
〒010-0976 秋田市八橋南一丁目8番5号(秋田市医師会館内)
TEL:018-827-3636 FAX:018-827-3614
E-mail renkei-center@acma.or.jp



編集後記

座談会にご参加いただいた皆様、ありがとうございました。今回議論された課題を市内全体の課題として捉え、今後研修会などで深められるよう検討していきます。

熊谷

